

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名 地域高規格道路 島原道路 一般国道57号 <small>もりやま</small> 森山拡幅	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局			
起終点 自：長崎県雲仙市愛野町乙字境ノ尾下 至：長崎県諫早市長野町		延長 7.6km			
事業概要 森山拡幅は、地域高規格道路「島原道路」の一部として広域ネットワークを形成し、島原半島から救急医療施設への速達性確保や島原半島の観光や地域産業活性化等の支援に寄与するとともに、国道57号の交通混雑緩和や交通安全性向上を図ることを目的とした事業である。					
S63年度事業化	H元年度都市計画決定 (H19年度変更)	H8年度用地着手			
全体事業費 約509億円		事業進捗率 約45%			
計画交通量 12,300～31,400台/日		供用済延長 1.6km			
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"> B/C (事業全体) 1.6 (残事業) 1.8 </td> <td style="text-align: center;"> 総費用 (残事業)/(事業全体) 213/506億円 (事業費：204/490億円) (維持管理費：9.2/16億円) </td> <td style="text-align: center;"> 総便益 (残事業)/(事業全体) 389/805億円 (走行時間短縮便益：335/717億円) (走行経費減少便益：29/60億円) (交通事故減少便益：25/28億円) </td> </tr> </table>	B/C (事業全体) 1.6 (残事業) 1.8	総費用 (残事業)/(事業全体) 213/506億円 (事業費：204/490億円) (維持管理費：9.2/16億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 389/805億円 (走行時間短縮便益：335/717億円) (走行経費減少便益：29/60億円) (交通事故減少便益：25/28億円)	基準年 平成25年
B/C (事業全体) 1.6 (残事業) 1.8	総費用 (残事業)/(事業全体) 213/506億円 (事業費：204/490億円) (維持管理費：9.2/16億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 389/805億円 (走行時間短縮便益：335/717億円) (走行経費減少便益：29/60億円) (交通事故減少便益：25/28億円)			
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.3～1.8（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.5～1.7（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.5～1.6（事業期間±20%） 【残事業】交通量：B/C=1.6～2.0（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.7～2.0（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.7～1.9（事業期間±20%）					
事業の効果等 ①広域ネットワークの形成・地域間交流の支援 ・島原市～諫早市、諫早ICへのアクセス性の向上 ②救急医療活動の支援 ・第三次救急医療施設（長崎医療センター）への救急搬送の支援及び救急搬送時間短縮による救命率の向上 ③観光の支援 ・島原半島の主要観光地へのアクセスが向上 ・長崎空港～島原半島間の所要時間の短縮 ④地域産業の支援 ・農産品流通拠点（島原青果市場）から諫早ICまでの所要時間短縮による鮮度の確保や安定的な輸送 ⑤交通混雑の解消・緩和 ・並行する国道57号の交通混雑の緩和 ⑥交通安全性の向上 ・通過交通の転換による現道交通量の減少から交通安全性が向上					
関係する地方公共団体等の意見 諫早市をはじめとする4市で構成される①一般国道57号等県南地域幹線道路整備促進期成会（会長：諫早市長）、②島原半島振興対策協議会（会長：島原市長）等により早期整備の要望を受けている。 （①平成24年11月、②平成25年1月）					
県の意見 一般国道57号は、県中央部と島原半島の主要地を結ぶ路線であり、当該地域の物流や人の交流を担う重要な路線である。このうち当該区間は、地域高規格道路島原道路を構成し、九州横断自動車道と一体となって広域交流を担い、島原半島全体の活性化につながる路線として地域の大きな期待が寄せられている。このような状況であることから、事業を継続し、早期整備、早期完成に取り組んでいただきたい。					

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

事業沿線の諫早市では人口が増加し、一世帯あたりの自動車保有台数が長崎県や九州の平均よりも高い。国道57号の交通量は2万台／日を超えており、混雑度は約1.6である。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成24年度末の事業進捗率は約45%であり、そのうち用地進捗率は約70%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や施工等に変更はないが、新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上、事業の効果及び進捗状況、事業評価監視委員会における審議、地方公共団体等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。